

## 国立大学協会 通常総会

## 国立大学の新たな将来像に関するWG「骨子案」示す

国立大学協会(会長 永田恭介筑波大学長)は3月6日、東京都内の学士会館で2023年度第4回通常総会を開催し、24年度の事業計画および収支予算を承認した。

24年度は、例年横浜で開催していた「トップセミナー」を8月29〜30日に名古屋で開催する。トップセミナーでは、学長・機構長らが国立大学の経営力・機能強化や国立大学の将来像について徹底的に議論を行う見通し。

9月12〜14日には国立大学幹部を対象とした「ユニバーシティ・デザイン・ワークショップ(UDWS)」が都内の研修型宿泊施設で開催され、マネジメント力の向上とともに参加者間のネットワークの構築を図る。また、国大協会の総会は11月8日、秋田大学をホスト校に秋田市内ホテルで開かれる。

◇ この日の総会では、「わが国の将来を担う国立大学の新たな将来像に関するワーキンググループ」(座長 梅原出横浜国立大学学長)より、これまでの議論の骨子案が示された。WGでは、2040年頃の世界および日本の状況を想定した上で、国立大学の目指すべき姿について検討を続けている。梅原座長は「国立大学がこれまで社会で果たしてきた役割を踏まえた上で、教育・研究などに対してどのような取り組みを行うか。行うべきか。



2023年度最後の通常総会。退任学長らからはエールが送られた

あるいは、国立大学がこれまで以上に社会の中で大きな役割を果たしていくためにはどのような改革が必要か。理事会および総会において意見をもらいながら、全ての国立大学にとって意義のある議論を進めていく」と語った。新たな将来像については、8月のトップセミナー、9月のUDWSでも議論が行われるが、8月までに中間取りまとめを行いたいとしている。

総会ではそのほか、大学入試センターから2024年度大学入学共通テスト実施結果について、日本学術振興会から2025年度学術システム研究センター新規研究員候補者の推薦について説明が行われた。

総会後に会見した永田会長は「国立大学の在り方について本格的な話し合いが始まっている。まず、物価高や人件費の高騰がある。能登半島地震では多くの国立大学附属病院がDMAT(災害派遣医療チーム)を派遣したが、(国から)費用は出ていない。各大学のボランティアによるものだ。非常に困窮している中、それでいいのかどうか。総会でも新年度に向けて各大学から要望があった。なんか合理的に闘っていきたい」と語った。

## 退任学長ら最後の挨拶

国立大学においては今年3月末で室蘭工業大学、北見工業大学、東北大学、宮城教育大学、秋田大学、千葉大学、名古屋工業大学、京都工芸繊維大学、奈良女子大学、島根大学、高知大学の学長(※千葉大学は学長代行)が退任する。(33〜34頁に関連記事)

総会では、退任する学長らがそれぞれ挨拶した。京都工繊大の森迫清貴学長は「本来ならもう少し早くやめる予定だったが、任期中にコロナがあった」と述べるなど、各大学長の任期期間は新型コロナウイルス感染症への対応に注力した期間と重なる。2021年秋に奈良で開催される予定だった国大協総会は、コロナのため一年延期に。奈良女子大の今岡春樹学長は「会場を押さえて、キャンセルして、再予約をして……。事務方にとってはなかなか大変なことだった」と当時を振り返った。

また、北見工業大の鈴木聡一郎学長は「学長就任から6年、あつという間だった。退任しも定年まで一年あるが、その一年間はスタートアップ担当の学長補佐として学内の環境整備を進める。退職後は私自身、起業したい」と今後に思いをはせた。

なお、大学共同利用機関法人である高エネルギー加速器研究機構の山内正則機構長も3月末で退任する。